

# 学習や学級集団づくりに関する改善プラン

【岡山市学力アセス、全国学力・学習状況調査の結果から】

○学力の状況について

※本改善プランは、岡山市教育委員会の統一した様式です

	教科	成果が見られた問題や領域等	課題が見られた問題や領域等
第2学年	国語	漢字の読み書きの問題 助詞の問題	問題文を読んで理解した上で必要な事柄を取り出して答える問題 読み取った文章を求められている形に書き換える問題
	算数	基礎的な計算問題 かたちや長さの問題	文章をもとにその関係を具体的に捉える問題 順序数と集合数の問題
	今後の手立て	国語では話し合い活動を十分に行いながら語彙を増やしたり、話し方の形式を学んだりできるように指導する。また教科書以外の文章(初見)を読んで問題を解く指導を取り入れる。算数では挿絵のない問題も解くことで、挿絵からの手がかりだけでなく問題文を読み取って理解し、さらにそれを図に表すことができるように苦手な児童を支援する。計算問題は朝学習で行っている50問計算プリント等を継続して、基礎的な計算力を引き続きつけていきたい。	
第3学年	国語	漢字の読み取り問題 身の回りにいる人や友達や先生に紹介する文章を書く問題	互いの話に関心をもち、相手の話を落とさないように聞いたり、相手の話を受けて話をつないだりする問題 漢字の書き取り問題
	算数	かけ算の計算問題 水のかさのたし算の問題	1000をこえる数の数直線上に数を表す問題 大きさを分数で表す問題
	今後の手立て	国語では、紹介文を書くなど、自ら文章に表現していこうとする力が伸びているが、互いの話を聞いたり、聞いたことに対して質問したりするなどの「話す聞く」の領域の指導を充実させる。 算数では、10000までの数の系列や順序を丁寧に捉えさせるようにし、数直線上の目盛りの大きさがいくつになっているかを判断できるように苦手な児童を支援する。分数は2年生の最後の単元でもあるので余裕をもって丁寧に扱うようにし、具体物で示していけるようにする。計算問題は引き続き練習を続けていきたい。	
第4学年	国語	物語の内容を読み取る問題	条件を与えられた中で、自分の考えを理由を用いて書く問題
	算数	棒グラフの読み取り 重さについて、全体から入れ物の重さを引いて、中身の重さを求める問題	問題の例を基に、乗法の結合法則を用いて、かけ算の仕方を工夫して説明する問題
	今後の手立て	国語では、日々の授業の「振り返り」や「まとめ」の場面で、「〇〇行以上で書く。」など制限を設けた上で文章を書く経験を積むことで、自分の考えを書く力を伸ばしていけるようにしたい。 算数では、複数の考え方を説明したり考えたりする場面を意識的に授業に取り入れていく。友達の考え方を真似たり例示した説明を基に自分の考えを書いたり話したりすることができるようにしていきたい。	
第5学年	国語	話し合いの内容を聞き取る問題 物語の内容を読み取る問題(登場人物の気持ちの変化についてを除く)	漢字の書き取り問題 内容の中心を明確にし、自分の考えを理由を用いて書く問題
	算数	四則計算の順序を考える問題	小数の位を揃えて計算する問題 図から立式する問題 式の理由を説明する問題
	今後の手立て	国語では、朝学習の時間やわくわくの学習時間などで、漢字練習を繰り返すことにより漢字の書き取りの定着を図る。「書くこと」の指導では、時間や文字数などに制限をつけた中で、自分の考えを書く機会を多くつくる。 算数では、立式したり答えを出したりするだけにとどめず、問題文・図・式の結びつきを大切に指導を行う。そのために、発表場面では理由も合わせて説明することを促していく。	
第6学年	国語	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかを問う問題	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る問題
	算数	全国、県の正答率を上回った問題に「正三角形の意味や性質について理解しているかどうか」を問う問題	「求め方」と「答え」を式や言葉を用いるような記述式の問題
	今後の手立て	国語では、自分の考えをもつ場面で「私は〇〇だから△△だと考える。」という定型文で自分の考えが伝わるように書き表したり、振り返りの場面でも同様の形で書いたりする活動を確保することで、苦手とする「書く」力を付けていきたい。 算数では、特に5年生、4年生の学習内容の苦手の積み残しが見られた。単元に入る前に既習事項の確認を行った上で、全ての児童が自信をもって学習に臨めるようにしていく。また、学習場面で自力解決を自分の言葉で書き、その方法をペアやグループで説明をする場面を設定することで、課題の克服を目指す。	

## 【学校全体での学力向上に向けた取組】

令和4年度では「思考・判断・表現」する場面を計画的につくるように学校全体で取り組んだ。また、すべての教科の授業の中で、まとめに加えて振り返りをする時間を確保し、自分の考えを広めたり深めたりできたことや、もっと知りたいと感じることや疑問に思ったことなど視点を示してどのように学んだのかを振り返り、次の学びにもつなげられるように指導を行った。その結果、多くの学年で国語科の「思考・判断・表現」が評価の観点となっている問題では一定の改善が見られた。ただし全国平均値には届いていない学年も多いため引き続き今年度の取組を継続していく。また、多くの学年や教科において「知識・技能」が評価の観点となっている問題が弱点となっていることと、その中でも苦手の積み上げがあることが分かったので授業の冒頭や朝学習の時間に復習する時間を適宜確保し、苦手としている児童の支援をしていく。

# 学習や学級集団づくりに関する改善プラン

【岡山市学力アセス、全国学力・学習状況調査の結果から】

○学習や生活の状況について

※本改善プランは、岡山市教育委員会の統一した様式です

岡山市立政田小学校教育基本計画 等	
学校教育目標 (めざす子ども像)	明るく元気で よく考え 仲良く助け合う政田の子
令和5年度の 指導の重点や 重点的な取組	<p>①分かりやすい授業づくりを行うために、学習のきまりを大切にしながら授業を行い、ICT等を効果的に活用した基礎基本を身に付けられる時間を設定する。さらに、「主体的・対話的で深い学び」に視点を当てた授業研究・授業改善を行い「わかった。できた。」の感得を目指す。</p> <p>②安心して学級づくりを行うために、よりよい自分や集団を目指す特別活動や道徳教育、情報モラルの指導の充実により人権意識や自己肯定感を高める。また、生活習慣を見直す取組を計画的に行うことにより体力の向上を図る。</p>



## 調査結果と分析

①令和4年度の結果から「自分の考えが相手にうまく伝わるように工夫して発表する。」の項目が他の項目や全国平均値と比べてやや低い傾向にあった。本校の目指す「わかった。できた。」を感得させる授業の実現のためには、授業のなかで対話的な学習活動は欠かせないと考え、自分の考えをもち自分の言葉で表現し、相手に伝えるような場面を意識的に設定してきた。その結果、令和5年度の「相手に伝わるように工夫して発表する。」の項目は全国平均を上回るまで改善された。しかし、「話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができた。」の項目では全国平均を下回っているため、対話のための工夫にとどまらず対話を自己の変容につなげられるよう意識して取り組む必要が見えてきた。

②令和5年度の結果から「自分にはよいところがあると思う。」の項目では全国平均を上回っていた。令和4年度も数値が高く、よい結果を継続できている。道徳の授業を核とした授業や、人権週間での取組等により、自他を認め安心できる学級づくりに取り組んできた。その結果、「いじめはどんな理由があってもいけない。」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。」の2つ項目で令和4年度よりも向上し、全国平均も上回っていた。しかし、「道徳の授業では自分の考えを学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいます。」の項目が令和4年度よりも低下し、全国平均を下回った。

## 分析を踏まえた今後の取組み

①令和5年度は引き続き「主体的・対話的で深い学び」に向けて全校で取り組んでいくとともに、他者との関わりを通して自分の考えを広げ深めるという視点を大切にしていけるように、多様な考えを整理分析し考えるべきことを焦点化した板書や、考えが深められるような発問を意識した授業実践を行う。また、校内研修や公開授業の反省をもとに実践を振り返ることで授業改善を図る。

②令和5年度も引き続き道徳の授業を核とした授業や、人権週間での取組を継続していく。今後はさらに、道徳の時間においても自分の考えをもち他者との関わりを通して自分の考えを広げ深めていくことができるように学習活動や学習形態を工夫する。生徒指導や特別支援の視点から外部講師を招いた校内研修を行い、専門的な知識や様々なケースを知ることで児童理解を深め、児童の自己肯定感を下げることなく指導や支援に取り組むことができるようにする。また、校外での活動の成果を全校の前で表彰したり、自主学習ノートの良い取組を紹介することで児童同士が良さを認め、より主体的に生活や学習に取り組めるように促していきたい。